

令和8年2月 12 日

## 第 76 回ベルリン国際映画祭において日本映画の海外発信の取組を実施します

文化庁が支援する 2 作品がノミネートされている第 76 回ベルリン国際映画祭が 2 月 12 日から開催されます。本映画祭において、文化庁はクリエイター支援基金による育成対象者である 4 名の監督（太田信吾、川和田恵真実、中西舞、長谷井宏紀（敬称略））を派遣するとともに、併設見本市での「ジャパン・ブース」の設置などを行い、日本映画の魅力発信や海外の映画関係者との交流促進・関係強化を行います。

### ① 「クリエイター支援基金」育成対象 4 名の監督を派遣

文化庁のクリエイター等育成支援事業による海外渡航育成対象の監督 4 名（太田信吾、川和田恵真、中西舞、長谷井宏紀）が、ベルリン国際映画祭併設見本市（EFM）に参加します。共同プロデューサー、国際セールス担当者、映画祭プログラマーなどとのミーティングを通じて、それぞれの作品企画開発にとって最も有益な活動を行う予定です。

【参考 1】フィルム・フロンティア ベルリン国際映画祭での活動

### ② 併設見本市における「ジャパン・ブース」の出展

ベルリン国際映画祭併設見本市（EFM）において、下記のとおり「ジャパン・ブース」を出展し、9 社の企業が参加します。日本映画の制作者等による海外広報・営業活動の拠点として、広報活動や海外公開に向けた取組等を支援します。またベルリン国際映画祭正式出品日本作品の取材対応や上記①の活動拠点等のスペースとしても活用します。

○ブース設置期間：令和 8（2026）年 2 月 12 日（木）～2 月 18 日（水）の 7 日間

○会場：映画祭併設見本市「ヨーロッパ・フィルム・マーケット（EFM）」

メイン会場 マルティン・グロピウス・バウ

○ブース面積：60 m<sup>2</sup>（出展者スペース/受付/イベントスペース/スタッフスペース/倉庫含）

○ブース使用企業：9 社

○過去のジャパン・ブースの様子



### ③在ドイツ日本国大使館主催「Japan Night」での発信

ベルリン国際映画祭開催期間中に、在ドイツ日本国大使館で開催されるレセプション「Japan Night」に上記①の監督4名が参加し、ベルリン国際映画祭の機会を利用した参加者等へ作品のプレゼンテーションを実施します。

#### 【参考：ベルリン国際映画祭】

1951年にドイツの映画史家アルフレッド・バウアーをディレクターに迎えて以来、毎年2月にドイツのベルリンで開かれている国際映画製作者連盟（FIAPF）公認の国際映画祭で、カンヌ国際映画祭、ヴェネツィア国際映画祭に並ぶ世界三大映画祭の一つ。

ドイツの首都ベルリンでの開催ということで、世界中の映画関係者が参加し、併設見本市「ヨーロッパ・フィルム・マーケット（EFM）」はヨーロッパに向けた発信や広報活動の場となっている。ベルリン国際映画祭における最高賞である金熊賞をこれまで受賞した日本人監督作品は以下のとおり。

- ・昭和 38 年（1963 年） 今井正監督『武士道残酷物語』
- ・平成 14 年（2002 年） 宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』

文化庁参事官（芸術文化担当）

参 事 官 小野 賢志

室 長 松永 佳子

専 門 官 河北 百合

【代表】03-5253-4111（内 2083）

第 76 回ベルリン国際映画祭における日本映画正式出品作品

※令和8年2月9日時点

■コンペティション部門

『花緑青が明ける日に』四宮義俊監督(日本、フランス合作)

(クリエイター支援基金 クリエイター等育成支援事業対象企画)

(文化庁文化芸術振興費補助金「国際共同制作映画支援事業」令和6年度採択)

■ベルリナーレスペシャル ミッドナイト部門

『スリープ・ノー・モア』Edwin 監督(インドネシア、シンガポール、日本、ドイツ、フランス合作)

(文化庁文化芸術振興費補助金「国際共同制作映画支援事業」令和6年度採択)

■パノラマ部門

『しびれ』内山拓也監督

■ジェネレーション K プラス部門

『映画 えんとつ町のプペル ～約束の時計台～』廣田裕介監督

■フォーラム部門

『チルド』岩崎裕介監督

『まさゆめ』吉開菜央監督

■フォーラム エクスパンド部門

『Narrative』Anocha Suwichakornpong 監督(タイ、韓国、日本合作)

■ベルリナーレ クラシック部門

『獣兵衛忍風帖』川尻善昭監督

『「エロ事師たち」より 人類学入門』今村昌平監督

【参考 1】

「クリエイター支援基金」「クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）」  
フィルム・フロンティア（長編アニメクリエイター支援）から『花緑青が明ける日に』が  
ベルリン国際映画祭コンペティション部門正式出品

海外渡航プログラム 育成対象監督 4 名は併設見本市 European Film Market へ派遣

2026 年 2 月 12 日

公益財団法人ユニジャパン

文化庁の補助金により独立行政法人日本芸術文化振興会に令和 5 年度に設置された「クリエイター支援基金」において、グローバルに活躍できる人材を育成する「クリエイター等育成プログラム」が展開されています。映画分野は「Film Frontier (フィルム・フロンティア)」の傘のもと 3 つのプログラム（①海外渡航プログラム 1～2 期、②滞在型企画開発、③長編アニメクリエイター支援 1 期～2 期）を実行しており、それぞれ企画の内容・進捗に合わせて、制作・映画祭・海外セールス・法務など各方面のアドバイザーが伴走しながら、海外映画祭・マーケット・ラボにおけるネットワーキング構築や、英語によるピッチングなどの実践的な活動訓練を行い、企画発表する場を設けます。

ベルリン国際映画祭および併設見本市では次のような成果、活動が行われます。

＜長編アニメクリエイター支援＞

長編アニメクリエイター支援から 1 期の支援対象企画『花緑青が明ける日に』がコンペティション部門に正式出品されます。本作は日本画家・四宮義俊が初めて手掛けた長編監督作。長編監督デビュー作が同部門に選出されることは非常に珍しく、日本映画としては『夢の女』（第 43 回／五代目坂東玉三郎監督）以来、33 年ぶりの選出となります。



Berlinale  
EFM

76<sup>th</sup> Berlinale Competition  
*A New Dawn*



©2025 NDFP



**Yoshitoshi Shinomiya**  
Director

## 四宮義俊

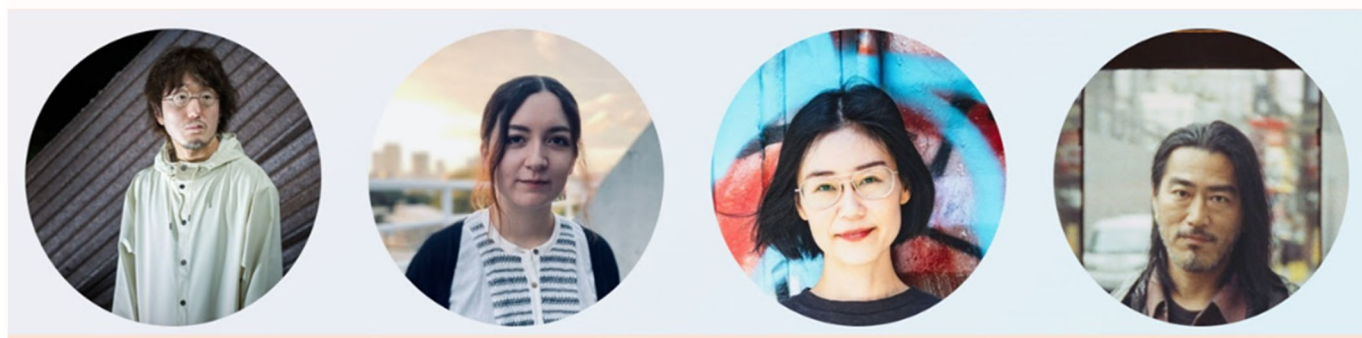
1980 年生まれ。日本画家として絵画を軸に、立体、映像など多彩な創作活動を行う。実写映画やアニメーション映画の美術や特殊シーン演出を担当、『君の名は。』（新海誠監督・回想シーン）、『この世界の片隅に』（片渕須直監督・水彩画）等に参加。渋谷スクランブル交差点での四面連動ビジョン放映で話題になった「トキノ交差」や「冒険隊〜森の勇者〜」（眉村ちあき）MV で監督を務める。本の装丁、広告、CM など各種メディアに携わる一方で、日本画家として培った素材研究をベースに異質なマテリアル同士やジャンル同士を媒介・融合させながら作品を制作し続けている。

### <海外渡航プログラム>

1 期の太田信吾監督、中西舞監督、長谷井宏紀監督は昨年カンヌ国際映画祭併設プログラム「マルシェ・ドゥ・フィルム」に派遣される等、それぞれの企画開発を進めてきました。18 カ月にわたる本プログラムの総仕上げとして、この度 [第 76 回ベルリン国際映画祭](#) 及び併設見本市 [「ヨーロッパ・フィルム・マーケット \(EFM\) 2026」](#) に現地参加し、アドバイザーやプロデューサーと共に、制作に進むためにより現実的、具体的なミーティングを実施する予定です。

同じく海外渡航プログラム 1 期の川和田恵真監督は、映画祭併設「Co-Production Market」に開発中企画が選抜されました。応募者が非常に多く最難関の企画マーケットに参加し、企画のブラッシュアップとともにピッチスキルの向上を目指します。

4 名には今回の派遣を通り、国際的な映画産業への見識をより一層深め、今後の国内外での活動の糧としていただくとともに、後日この機会に得た学びを映画製作者へ共有していただく予定です。



（左から 太田信吾監督、川和田恵真監督、中西舞監督、長谷井宏紀監督）

※フィルム・フロンティアは、独立行政法人日本芸術文化振興会より公益財団法人ユニジャパンが委託を受け、運営等を行っています。



## ■派遣監督（4名） ※五十音順

### 太田 信吾

長野県出身。早稲田大学在学中に哲学・物語論を専攻。卒業制作として制作した映画『卒業』がイメージフォーラムフェスティバル 2010 優秀賞・観客賞受賞。

友人の自死と向き合い制作した長編ドキュメンタリー映画『わたしたちに許された特別な時間の終わり』が山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 で公開後、世界 12 カ国で公開。

近作に東京国際映画祭で上映後、テアトル新宿を皮切りに劇場公開された映画『解放区』など。映画『現代版 城崎にて』でゆうばり国際ファンタスティック映画祭 2022 優秀芸術賞受賞。

制作中の長編ドキュメンタリー『沼影市民プール』は、制作段階においてカルロヴィ・ヴァリ国際映画祭 2024 にて日本企画としては初となる「First Cut+ Works in Progress Award」を受賞。同作は、Doc Edge（ニュージーランド）でワールドプレミア、釜山国際映画祭でのアジアプレミアを皮切りに劇場公開を控えている。

### 川和田 恵真

2014 年に「分福」に所属し、是枝裕和監督の作品等で監督助手を務める。

2018 年の第 23 回釜山国際映画祭「ASIAN PROJECT MARKET (APM)」で、アルテ国際賞(ARTE International Prize)を受賞。

『マيسモールランド』（2022）で商業長編映画デビュー。本作でベルリン国際映画祭ジェネレーション部門招待。アムネスティ国際映画賞の特別表彰を受けた。

### 中西 舞

東京生まれ、5 カ国で暮らす。短編監督作に『HANA』（韓国・日本／2018）、『SWALLOW／喰之女』（台湾・日本／2021）、『BORDER』（韓国・日本／2023）、『告解』（日本／2025）。短編集『LABYRINTHIA／ラビリンスシア』が、テアトル新宿ほか全国の劇場で公開。釜山国際映画祭 Asian Film Academy、タレント・トーキョー、サンダンス・インスティテュート／NHK 賞 2024 年度推薦作家、トロント国際映画祭 TIFF Directors' Lab 2025 選出。現在、海外合作による初長編企画を準備中。

### 長谷井 宏紀

フィリピンのゴミの山と墓地で暮らす人々を描いた短編映画『GODOG』を発表後、『ブランカとギター弾き』（原題 BLANKA（伊））で長編映画監督デビューした。母親を買おうと奔走するストリートチルドレンを描いた本作は 2015 年ベネチア国際映画祭にてマジックランタン賞、ジャーナリストから贈られるソッリーゾ・ディベルソ賞を W 受賞。日本では新藤兼人賞 金賞を受賞した。

## ■プログラム内容 派遣期間：2025/2/12-2/18

監督4名は、各自開発中の企画内容に合わせた講義や面接、ピッチングアドバイスを約1年にわたり受講してきました。

今回の派遣中は「ヨーロッパ・フィルム・マーケット」に文化庁が設ける「ジャパン・ブース」を活動拠点とし、各自開発中の企画の進捗状況に合わせて共同プロデューサー、セールスエージェント、映画祭プログラマーなど業界プロフェッショナルとのより実質的な関係構築を深めます。また、交流会やネットワーキングイベントへの参加、映画祭期間中に配布される業界紙に広告掲載を予定しています。

その他マーケットスクリーニングやセミナー、インダストリーセッションには各自の興味関心に合わせて参加いただきます。

## ■本件のお問い合わせは下記「フィルム・フロンティア 事務局」までお願いします

【主 催】文化庁 独立行政法人日本芸術文化振興会

【事務局】公益財団法人ユニジャパン

【お問い合わせ】ユニジャパン フィルム・フロンティア 事務局

〒104-0045 東京都中央区築地 4-1-1,15 階 TEL：03-6226-3022 E-mail：office@unijapan.org